

宗教と思想

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■科目のねらい：宗教と思想はそれぞれ、「信じること」と「考えること」として、互いに異質な営みであるように見えます。実際、「神さま信じるのって、自分の頭で考えられない人じゃない?」と言う人もいるでしょう。しかし、そんなふうに簡単に宗教を斬つて捨ててしまう前に、様々な宗教のなかで生まれ、継承されてきたものの見方に、目を向けてみてはどうでしょう。そこには人間とは何か、生命とは何か、といった根源的な問いに関わる思想の結晶が、ふんだんにかくされています。この講義では、そのような「宗教の思想」を、身近な話題や関連する映画の紹介を織り交ぜて、様々な角度から解説していきます。

■到達目標：

- ①キリスト教、イスラーム、仏教をはじめとする諸宗教の成り立ちと基本思想についての最小限の知識の習得。
- ②自らの宗教観の偏り（これは誰しも免れえない）を自覚し、異なる信念の持ち主との間にも絶えず共感の糸口を探そうとする姿勢の形成。
- ③日々接する現象や情報の中に隠れている宗教との接点を鋭く見いだし、その含意を丁寧に読み解いていく姿勢の形成。

■担当教員：

堀 雅彦

■授業計画・内容：

- 第 1 回 イントロダクション：そもそも「宗教」って、何?
- 第 2 回 世界の宗教分布と日本人の「無宗教」について
- 第 3 回 キリスト教の成り立ちと思想の基本
- 第 4 回 現代キリスト教の風景
- 第 5 回 映画の中のキリスト教
- 第 6 回 イスラームの成り立ちと思想の基本
- 第 7 回 現代イスラームの風景
- 第 7 回 映画の中のイスラーム
- 第 8 回 仏教の成り立ちと思想の基本
- 第 9 回 現代仏教の風景
- 第10回 映画の中の仏教
- 第11回 新宗教を知ろう（1）戦前的新宗教
- 第12回 新宗教を知ろう（2）戦後的新宗教
- 第13回 スピリチュアル文化と「宗教的なもの」のゆくえ
- 第14回 宗教と死生観の問題
- 第15回 まとめと質疑応答

■教科書：特に指定せず、授業中にハンドアウトを配布します。

■参考文献：授業の中で適宜紹介します。

■成績評価基準と方法：授業内レポート（感想、質問など）50%、定期試験50%。

| 評価方法 | 到達目標 | | | 評価基準 | 評価割合(%) |
|--------------|-------|-------|-------|--|---------|
| | 到達目標① | 到達目標② | 到達目標③ | | |
| 定期試験 | ○ | ○ | ○ | 基礎的な用語の理解に加え、学んだ事柄をふまえて自分なりの宗教観を整理して論じられること。 | 50 |
| 小テスト・授業内レポート | ○ | ○ | ○ | 授業内容の要所を把握しているとともに、自ら考え、学ぼうとする姿勢が感じられること。 | 50 |
| 出席 | | | | 10回以上の出席 | 欠格条件 |
| その他 | | | | | |

○：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■関連科目：

■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：何かを信じることを勧めるものではありませんので、その点は安心（?）してください。私たちが宗教から受け取るべきは答えではなく、むしろ問い合わせなのです。